



埼玉支部報 第16号

目次

自然保護委員会「高尾山森づくり体験研会」	1	四季の山・夏山 秋田駒ヶ岳に参加して	7
自然保護委員会「第一回森づくり活動」	2	埼玉 100 山 不動山・雨乞山	8
四季の山・冬山 ハヶ岳東天狗岳	3	四姑娘山スェッ山行	10
四季の山・春山 笠取山～飛龍山を歩いて	4	平成27年度支部合同会議報告	11
第9回講習会 ハイキングレスキュー講習報告	5	埼玉 100 山 天目山	12
埼玉 100 山 宗四郎山	6	会員異動・今後の事業予定	13



自然保護委員会「高尾山森づくり体験研修会」－高尾グリーンセンター

平成27年4月29日～30日

参加者 高嶋徳紘、龍久仁人(L)、柴田研二、斎藤友護、藤野 欣也、吉田 寛治、中村直樹、村越 百合子(29日) 朝日守(SL) 以上9名

29日－はじめに、当センター長である龍久仁人氏から、グリーンセンター設立の経緯とセンター所在の梅の木平国有林内の80haにおける事業

活動、並びに龍氏が事務局長を務める、裏高尾小下沢風景林の日本山岳会高尾の森づくりについて説明があった。その後、作業現場に移動する。間伐作業は森の木々に太陽光が当たる事を念頭に、安全第一に切り倒す方向の確認と、切り倒す側につける受け口の切り込みなどについて、グリーンセンターの加藤氏から細かな手ほどきを受けながら、予め目印された檜の間伐と、さらに日

差しが入り下草が育つよう、アオキなど背が高く



急斜面を切り開いたところに、アオキ・エビネを見つけた。将来的には、針葉樹と様々な広葉樹を織り交ぜた、美しい森をめざしているとの事である。午後からは、センター建物裏周辺のビオトープ化計画を先取りする、明日のビオトープ周回コースの径づくりの下見と一部の除伐を行った。夕食と朝食、昼弁当は吉田シェフ！が三十数品目の材料をエクセルに纏め献立し、夕刻から外のバーベキュー・コーナーで、和気あいあい八重桜の花びら舞うなか馳走と美酒にほろ酔い、高嶋委員長と龍センター長の連歌が披露された。暫くして、腕に覚えあり強者が薪割りに名乗り出て、マサカリの一刀両断に歓声があがった。

30日8時30分、前日下見の周回コースの道づくり、まさしく土木工事である、龍監督の下、始めに測量士の藤野氏が竹木を立てコース取り、約



なる常緑の木々の除伐を行った。

1メートル幅の草木を除伐皆伐、その後に切り込み鋤で径を造る。山径はこうして出来るのだと実感した。

11時グリーンセンターを取り巻く自然環境を観察すべく、センター前の小川を南に越えて草戸山(昼食)～城山湖を左眼下に～夏窪山～大垂分岐からグリーンセンターへと一周し13時20分下山したが、高尾の南稜には珍しい草花が多くハナイカダ・コマユミ・コバノタツナミソウ・ノブキ・・・、キンランが道端にたった一輪が咲いていて印象深い。高尾は日本屈指の多様性生物の宝庫であり、獣の径やイノシシ達の活動の痕跡が多くみられた。下山後、道具の手入れを行い、お礼を申し上げ14時充実した研修会を終了した。高尾グリーンセンターは施設も充実しており、森づくりの組織づくり、集積した知識と技術、マネジメント等々を学びました。早々に来年のリクエストの声が出る実り多き研修会でありました。

自然保護委員会「第一回森づくり活動」－入間市さいたま緑の森博物館

平成27年 5月 24日(日)

8時30分 開会式。参加者－自然保護委員会 中村直樹、下野美穂子、村越百合子、朝日守(L) 4名、NPO 埼玉森林サポータクラブー22名(主催者)、彩の国みどりのサポーターズクラブ(埼玉県みどり自然課主管)の子供・県職員を含む20数名 合計40名

自然保護委員会メンバーも一緒に





昨年は近くに葛に埋もれた植林地があった。
4年の鬱蒼とした植林地



今回の草刈りで広々とした植林地
一日の流れ—開会式の後、大鎌・ヘルメット装
備し現場に移動、作業手順を教わり11時半まで
作業、その後、閉会式の駐車場に戻り、鎌研ぎ
を行ってから装備を返納。11時半過ぎ閉会解散
となる。

午後からは二つの自然観察会が行われた。

・活動地と作業内容—さいたま緑の森博物館は
狭山丘陵の北西端にあり、この一帯はクヌギ・
ミズナラに恵まれ、県立狭山自然公園に指定さ
れている。自然保護委員会は平成22年暮れか
らNP0埼玉森林サポータークラブとのコラボレ
ーションにより、森づくり活動を行っているが、
当地での活動回数が一番多い。

当初は子供達が森のドングリを自宅に持ち帰
り、鉢植えで育てたクヌギ・ミズナラの苗木

を植林したが、じきに草むらに埋もれ葛に絡
まれ、痛々しく幼木に絡む弦の切除と、植木
の周りだけの草刈り、いわゆる坪刈りによる
救出作業の繰り返しであった。

今回は植樹から6～7年経ち、従来の坪刈では
なく現場全体を刈り込む全刈をおこなった。

- ・緑の森博物館による、ガイドウォークには彩
の国みどりのサポーターズクラブの家族連れ
と自然保護委員の約20名が参加。
草木の葉の匂いや草笛体験、モリアオガエルの
樹木産卵観察、クヌギ・コナラの見分け方
その他・・・、若手学芸委員の分かり易いテー
マと体験型観察会に子供達も興味津津であっ
た。
- ・自然保護委員会自然観察会、今回は中村委員
による雑草の見分け方をテーマに、隣接の狭
山丘陵を巡検し、ハルシオンとヒメシオン、
ヘビイチゴとヤブヘビイチゴ、キツネノボタ
ンとケキツネノボタン、ヒメムカシヨモギと
オオアレチノギク他、事前調査による講師作
成資料を使い検証したが、明確に違いを見出
す事の難しさを悟った。ルーペ、デジタルカ
メラの拡大機能が役立つ。午後3時過ぎ解散。

以上1. 2文責朝日

四季の山行 冬山 八ヶ岳東天狗岳

正田範満

山行委員会主催により、2015年2月14日～15
日に北八ヶ岳・天狗岳にて四季の山・冬山の山
行を実施した。埼玉支部会員の中から14名が
参加され、本格的な冬山が初めての方からベテ
ランまでの参加となった。隊を7名ずつの2班
に分けて行動を行った。初日の渋の湯からのコ
ースはタイム的には比較的楽な上、黒百合ヒュ

ッテも有り、頂上アタックも短時間のコースとして、冬山入門には丁度良い計画である。初日は小屋に着いてから、雪崩講習の一環としてピットを堀弱層テストの講習会全員参加で行った。

翌日は吹雪の中で山頂にアタックを掛けたが、途中クラブツーリズムの遭難支援の為に、正田範満、緑は支援に入り、救助活動を行った。他のメンバーを一隊にまとめて、高橋さんをお願いした。全員は無事登頂し下山した。山頂から小屋までの帰路で少し迷ったようであるが、入山客が多い山域でも、強風のホワイトアウト状況では、道を失うこともあるので、赤旗・赤布の準備が必要であろうと思う。また、雪道の歩き方はアイゼン登行・ツボ足でのキックステップ等経験によることが大きいので、残雪の山等での訓練が必要であろうと思われた。

四季の山・春山

笠取山～飛龍山を歩いて

今回は飛龍山登頂が第一の目標だった。無事登頂できて良かったが、あまり感動もなく、印象も薄い。山頂が景観もなく、なだらかなボヤーとした地形だったからかもしれない。もし、逆に前飛龍山からのきつい尾根を登って雲取山への通過点として再来してみたらどんな思いがするだろうか？機会があったら、また出かけてみたくなった。

作場平から笠取山は経験のあるコースだったため、今回はちょっとリュックを重くしてトレーニングを兼ねてみた。欠陥のある足首の様子と自分の体力を確認して見たかった。

普段より重い荷物を背負っているのに身体はほどよい心地よさを感じているのに気が付いた。コースリーダーのペース配分の良さのおかげを感じた。恐らく私一人の単独行であつたら、笠取山のあの急斜面は息を切らせて何度か立ち止まっていたに違いない。こんな感想文を書いている

から、末長く私の頭と体に教訓として残ることだろう。

重みをもったリュックは、やはり踵には負担が来た。山小屋では立ち上がるのも痛く、少々後悔もしたが、反面、随分強くなったことも確認できた。

二日目は、竜喰山への登頂一番乗をさせてくれた。メンバーの皆さん、ありがとうございます。物好きな私に花を持たせてくれて感謝している。

竜喰山頂上から県境尾根から山梨側の登山道に下りる際、あのガレた沢は大変だった。前日からの足の痛みが一気に襲いかかってきた。ミサカ尾根から丹波への下りは感覚もおかしくなり、どっかりと腰を下ろして休みたい気持ちにしばしば襲われた。時間に追われていたせいもあったが休憩時間が短かったことが逆に幸いした感じである。

二日間、天候はいまいちだったものの、顔見知りになったメンバーに恵まれ、リラックスした気持ちで山歩きができた。また、我が身体や両足の踵ともうまく調和がとれたトレーニングもできて心地よい山行であつた。

(森田 勉 記)



第9回講習会

ハイキングレスキュー講習報告

安全登山委員会主催による第9回講習会「ハイキングレスキュー講習」は平成27年6月6日(土)、9:30～16:00、飯能市市民会館(会議室201)及び天覧山周辺の登山道で開催された。講習会には埼玉支部会員(会友を含む)計18名が参加した。今回は、初めてハイキングレスキュー講習に参加した会員も多く見かけられ、盛況だった。講師は遭難対策の専門家である埼玉県山岳連盟・遭難対策委員長の瀬藤 武氏に3年連続で依頼した。

講習は初めに会議室で机上講習が行われた。テキストは、「第9回講習会ハイキングレスキュー講習」、「ビバークに関する資料」及び「天覧山周辺の地図」の3種類が使用された。ハイキングレスキュー概論では、登山計画書の作成からレスキューが始まり、山行のシミュレーションが可能となることから、計画書作成の重要性が指摘された。セルフレスキューに必要な最低限の装備として、救急医薬品、地図、コンパス、ヘッドランプ、雨具、通信手段、非常食、補助ロープ(φ6～8mm×10～20mm)、スリング(長、短3本 600mm、1200mm、1500mm)、カラビナ(3枚以上、1枚は安全環付)、ツエルトなどが指摘された。ヘリコプターレスキュー時の注意点に関する説明やビバーク時の注意点として、日没30分前には場所を決めること、沢を下ると滝が現れたり、苔で滑り易く危険であること、などの注意点に関する説明があった。

実地講習は会議室と屋外で実施され、①読図講習(道迷い遭難が多発しているため)、②テープスリングを用いた簡易ハーネスの結び方、③簡易搬送法では、搬送用ネット及びツエルトによる搬送、雨具やザックによる背負い方などの講習があり、極めて実践的な内容であった。屋外では天覧山周辺で地図とコンパスによる読図講習、補助ロープ2本を用いて崖状の斜面を利用した負傷者の搬出訓練などを実施した。

今回のハイキングレスキューは過去2回とは異なる種類の講習が追加され、実践的で身近な装備を利用したレスキュー講習であり、大変有益な講習であった。これらのレスキュー講習は登山初心者から経験者まで応用が可能であり、埼玉支部山行などでも利用可能な技術であると考えられる。次回も多数の会員の参加を期待いたします。



会議室での読図講習



斜面での搬出訓練

記松本敏夫

埼玉 100 山 宗四郎山

田中摩利子

日 時： 平成 27 年 7 月 5 日 (日)

天 気： 曇り

コース： 09:10 天丸橋駐車場－10:44 大山と天丸山の分岐－10:55 倉門山 11:00－12:15 山吹峠 12:20－12:52 宗四郎山 13:10－13:42 山吹峠 13:47－14:00 林道－15:00 天丸橋

梅雨真っ只中。

午前4時にセットした時計のアラームが鳴る前に叩きつけるような雨音で目が覚める。今日は中止かな？携帯とPCメールをチェックするがまだ連絡はない。きっとそのうち連絡がくるだろうと準備して家を出た。傘をさしても濡れるほど雨が降っている。集合場所の大宮駅を出る時も車で移動中もずっと雨が降っていたが北に進むほど小雨になり登山口に着く頃にはすっかり上がっていた。

準備を整えて待っていたメンバーと合流し出発をする。天丸橋登山口には天丸・帳付・大山の標示はあるが目指す宗四郎山の山名はない。沢を何度か渡り徐々に高度を上げていく。ここ数日雨続きで登山道はぬかるみ苦むしている。途中透き通るような淡青色をした満開のコアジサイ(小紫陽花)が咲き誇りジメジメした樹林の中で登山者の私たちを和ませてくれた。

少ない標識、薄い踏み跡、一定の間隔でついているテープを頼りに倉門山に着いた。山名プレートが木に付けられていたので山頂だということが分かったが展望もなく、なんとなく通り過ぎてしまいそうな山頂だ。ここまで山と高原地図は実線だがここから先の宗四郎山まで気の抜けない点線ルートになる。今日はベテランの方々と一緒にわくわくしている。

尾根沿いの岩稜帯に出ると展望が開けた。あいにく雲が多く遠くまで見渡せなかったが西上州のゴツゴツした山々を見ながら小休止。尾根を一旦右に巻きトラバースをすると踏み跡が急に薄

くなる。先頭の森田さんがコンパスと地図で慎重に道を探しながら進む。後を追う。湿った落ち葉が幾重にも重なり滑るので三点確保をしようと木を掴むとボキッ、腐っていた。バランス崩し体重を支えようと足で別の木の根元に力を入れ踏ん張るとグチャ、これも腐っていた。転倒し滑り落ちながら足首を木に引っ掛けようやく止まる。やれやれ。ジメッとした場所ではやたらと木に触れてはならないと悟る。

ようやく小さな祠のある山吹峠に着く。ここから先は急登で一部にロープが吊るされていた。ロープや木の根を掴みながら上がる。さらに山頂直下の足場の悪い傾斜を這い上がると宗四郎山の山頂に着く。遠くに見える山々の山名を教えていただいたが覚えきれない。ただ、なかなかの展望であることは間違いない。山名のプレートを探すが見当たらない。下見に来たときはあったらしいが風で飛んで行ってしまったのか。プレートなしで登頂証拠の集合写真を撮ってから下山開始。山吹峠まで戻り明瞭な踏み跡を九十九折に下るとほどなく舗装路と合流。立派な舗装路だが通行止めのためここから1時間車道を歩く。途中全長480mの天丸トンネル内はヘッドライトの灯りを頼りに歩き、天丸橋駐車場に戻った。

宗四郎山は前評判通りプチバリルートだった。道中、宗四郎山という文字をみかけなかった。歩程距離は短いがあまり人が歩いている感じはない。日本〇名山というブランドの山は安心感がありいいが、最近、登山中誰にも会わない静かで危険な香りのする地味な山が好きになりつつある。



四季の山・夏山 秋田駒ヶ岳に参加して

恵 秀彦

最初の印象、休暇村でのキャンプ体験

東北の山と温泉を楽しみましょう、こんな魅惑的な誘い文句に惹かれて会山行のお仲間に加えて頂いた。支部行事では幾度か経験したが、山旅を目的とした参加は今回が初めてだったので、メンバーに迷惑をかけてはと、多少の不安もあった。初日は、乳頭温泉郷に位置する休暇村キャンプ場。ブナの疎林に囲まれたオートサイトにテントを3張。テーブルをタープで囲み、夕餉の下準備が整うと、まずは温泉旅の幕開けだ。まだ若い頃、冬の救助講習で訪れたことのある温泉施設である。露天風呂に浸かりながら、越しかたを思う。ひと風呂浴びた後はご準備頂いたすき焼き、ご持参頂いた塩麴の胡瓜など様々な食材をサカナに、これも差し入れの冷えたビールで喉を潤す。心憎いばかりの演出だ。ここで気がついた事。「ひとりテント」「食事は別」である昨今の若者と異なり、「団塊の世代」前後に位置する参加者は、互いに「同じ釜の飯」意識で鍋を囲む遠慮のない所作がしごく自然であり、いつの間にか不安な気持ちもどこかへと消えていった。

二日目の発見、秋田駒ヶ乳頭山で感じたこと
小雨まじりの空模様をめぐる事なく、八合目小屋から秋田駒ヶ岳を目指す。灌木を越え、溶岩石を踏みしめてパーティに遅れまいとひたすら足元を追う。蝶が舞い、花咲き乱れるはずの広大な風景は、空しく横殴りの風と共に乳白色の霧の彼方へと消え去った。それにしても余裕綽々で花を愛でる皆さまの健脚ぶりに脱帽。講習では普段の生活態度が山に現れるなど、ほざいているが、一体、誰の事？日光の猿軍団宜しく「反省！」しきりである。とは言え、東北の山はあくまでも優しい。湯森山までは緩やかな尾根。池塘や湿原が広がる熊見平を経て笹森山へ。盛りはすぎたとはいえ、雪田草原に咲くニッコウキスゲ、コバイケイソウ

など湿性の高山植物を楽しみながら千沼ガ原の大湿原を抜けて乳頭山へ。ようやく本日の長い山旅も終わりに近づいていた。晴天下に咲き乱れる高山植物群。二日目の山はそれと対極的ともいえる様相だったが、展望に恵まれなかった分だけ、また、色あせ始めた残り花だからこそ自生環境が際立ち、鮮明に脳裏に刻まれた気がする。そして、三日目、阿仁マタギの郷、森吉山へ。昨日の疲れで萎えた心をなんとか整え、今回の山旅の主目的であろう和賀岳へ。途中、落石による道路閉鎖により花の百名山で知られる森吉山へと計画の変更を余儀なくされた。予想外のトラブルだ。残念がってはみせても内心、ほっとした複雑な気持ち。想定外の出来事は旅を豊かにしてくれる。意外性にこそ旅の本質が隠れている、ナンチャッテ…。それにしても今回の山旅には、様々な場面で山行委員の皆さまの気配りを感じる事が出来た。行程を考慮してのテント泊と田沢湖畔の宿の組み合わせ。さり気ないようできて周到な準備の跡を垣間見る事が出来、このことが何よりも大きな収穫になった。ありがとうございました。



埼玉 100 山 不動山・雨乞山

鴨志田 隼司

日 時：平成 27 年 9 月 5 日（土曜日）

天 候：薄曇り

参加者：松本敏夫，古川史典，渡邊嘉典，鈴木捷夫，川村利子，右川清夫，宮崎 稔，村上光明，岡村美邦，橋本久子，今山 健，時松友二，山崎保夫，梶野 登，正田範満，鴨志田隼司，藤野欣也，正田 緑（18 名）

コース：秩父鉄道・野上駅（9:00）-洞昌院（9:30）
-八重子 3 号橋（10:10）-苔不動入口（10:15）-
苔不動（11:50）-不動山（12:20）-間瀬峠（13:30）
-雨乞山（14:00）-榎峠（14:45）-秩父鉄道・樋口駅（15:50）

秩父地方は峠の多い山里である。秩父への路，秩父からの路，秩父は他国への通過地点でもある。

上武山地の最高峰城峰山（1038.m）を辿る山稜は，標高 718.5m 峰から今では烟滅した女岳・男岳の山容を経て，北に向きを変え，荒川左岸の河岸段丘上に城砦のように連なり，寄居近辺で関東平野に没する。この特異な山地を形成した要因は，秩父黒谷から国神を経て皆野金沢（山）川沿いに出牛（じゅうし）まで続く，出牛―黒谷断層だと考えられる。

この山地には数多くの信仰と生活の峠路が開かれている。西から順に，野上峠，出牛峠，ぐみのき峠，糠掃峠，不動峠，間瀬峠，榎峠，大槻峠，筑坂峠，かんぼの宿脇のタルも波久礼から円良田へ抜ける峠路のひとつだったと波久礼駅の助役は教えてくれた。

大正時代，地質巡検をしていた盛岡高等農林学校の 2 年生だった宮沢賢治は秩父地方産の結晶片岩（秩父青石）に感動し，

つくづくと『粋（いき）な模様の博多帯』

荒川ぎしの片岩のいろ

の歌を残し，野上駅からの帰途に，風景と心象を，盆地にも 今日とは別れの本野上

駅にひかれる たうきびの穂よ

の歌に残している。賢治の歌碑は秩父鉄道の野上駅前に建てられている。

この山域は日本の地質学者が注目するような，地形・地質の宝庫である。ことに，三波川結晶片岩の一種である，「秩父青石」は，縄文時代から関東地方一帯で，石棒・石皿・石斧の石製品として使われてきた。中世に至ると，板碑としての需要が増え「板石塔婆石材採掘遺跡」が山腹の彼処にいまでも遺されている。

野上駅前に集合した参加者は先輩会員を含めて 18 名だった。今年の猛暑に翻弄されて，二ヶ月間ほど山から遠ざかっていたので，同行できるか心配であった。

松本支部長に初参加者として紹介され，駅前を後にした。今日のコースは，長瀬秋の七草寺のひとつ，「萩の寺」と呼ばれる関東三十六不動霊場洞昌院と奥の院苔不動を経て不動山・雨乞山を目指す静かな山旅である。

秩父往還を横切り，長瀬アルプスの登山口を左に見送ると，目的の不動山から雨乞山の山容が遠望され，荒川の対岸に小林山（大平山）の特徴的な山脈が見渡せる。野上郷から下流は波久礼の狭窄部のため，たびたび野上河岸段丘は洪水に見舞われたとのことである。萩の寺は河岸段丘の段丘崖に位置していた。萩の花は咲き始めで，境内一面に植栽された萩が全開するときはさぞかし秋一番の見所であろう。赤紫色の花の遙かに大平山の山容が美しい。寺を辞する際に，奥様から熊が出没しているので，注意するようにと助言を受ける。

本野上在住の宮崎さんを案内に砂吹沢をぬうように苔不動入口の八重子 3 号橋をめざす。途中，糠掃峠と不動峠の分岐に二十一夜待供養塔が祀られている。途中の路には，センニンソウ，ヤブミョウガ，コムラサキ，秋海棠，ノブドウ・ゴンズイの花と実が鑑賞できた。道は八重子 3 号橋の手前から八重子沢に沿うに登山道となる。県営射

撃場からの銃声が沢にこだまする頃、八重子大黒天の社に至る。その先からのルートは案内板に従い右上の荒れた沢の径で、落石注意の急な登りとなる。沢筋にサワアジサイ、ヤブレガサの花を見ながらガレ径を辿ると、眼前に大きな岩（緑泥片岩）の基部に野仏があらわれる。大岩の基部を回り込み、なおも登るとピンクテープの懸かる岩にぶつかる。岩は青石で、岸壁には人工的な加工孔が穿たれていた。岸壁の基部を通過し、岩の上部へ回り込むように登り、ハングした岸壁下部を通過するトラバース気味の斜面にでる。岸壁を通過する際に、壁に設けられた石積みの階段を認めたが、先頭グループはなおこの斜面を苦勞しながらトラバースし小さな尾根に乗ろうとしていた。松本支部長が遙か下からルートミス指摘し、戻るように指示していたが、トップはすでに小尾根に乗っていた。ラストは窪のトラバースを半分ほど過ぎていたので、スリッパに注意してそのまま慎重に進んだ。

小尾根の突き上げは、苔不動からの参拝路に合流した。十数名の会員による明瞭な踏み跡はJAC埼玉支部ルートになりそう。参拝路はあの石積階段を上るのが正しいルートだった。

苔不動明王の石像は、緑泥片岩の崖下に基壇が設けられ、その上に祀られていた。比較的新しい像であるが、捧げられた巨大な三鈷剣は本年2月28日の祭日に祀られており、その周辺におびただし数の三鈷剣が捧げられ、いまでも信仰の対象になっているようだ。

不動峠は林道が不動山の南西尾根を切る場所に表示されていた。児玉町河内方面への降り口は草深い植林地に覆われて見いだせなかった。不動峠からの登りは伐採跡地で、長瀬の町と箕山・宝登山そして霞んだ武甲山が見える。秩父側は広葉樹の植生で児玉町側はスギ・ヒノキの植林地で見晴らしが得られない。登山道の脇で、ヤブラン、ヤマホトトギスを見つけた。辿り着いた不動山は三等三角点だけの展望の利かない山頂であった。

宮崎会員によると昔は伐採跡地で見晴らしが利いたとのことである。不動山から間瀬峠への山道は平坦な道で、難なく間瀬峠の急な法面をトラロープに頼って降りた。

間瀬峠では調子を崩した参加者が下山することとなった。報告者も体調不良のため、最寄りの駅まで下山することにした。里へ出る林道の途中で、宮崎会員の娘さんが運転する乗用車に拾われて今朝出発した野上駅へ戻った。



不動山山頂にて



四姑娘山スケッ山行

アルパインスケッチクラブの25周年記念で埼玉支部のアルパインスケッチクラブのメンバーが4人参加しましたので報告します。期間:2015年7月3日(金)～12日(日)

参加者:斎藤幹雄、渡邊嘉也、川村利子、富樫信樹 他6名。

四姑娘山の雪山をバックにブルーポピーのスケッチを目的にし、体調が良ければ大姑娘山(5,025m)の登頂を目ざしました。

7月3日(金)に成田から成都に入り、翌日成都からバスは高速道路で山岳部の被害の大きかった四川大地震の震源地を抜けて少数民族のチベット族の町日隆まで移動。予定していた道路の損害で迂回したために14時間要しました。日隆の日月山荘はチベット建築の宿で海拔が3,150mでエレベーターがないので荷物を3階まで運び上げるのが一苦勞であった。

第3日目の7月5日には高度順化を目的に宿の近くから専用バスで長坪溝にハイキング

第4日目 7月6日 日隆から大姑娘山のBCまでのトレッキングは出発して300m程の尾根に取り付いて尾根の上に出ると眼前に白く



雪を頂く四姑娘山～大姑娘山まで4つの姑娘山の頂が見える。梅雨の季節に訪れて山が見えるか心配していたが安心した。早速四姑娘山パノラマのスケッチを開始する。登山道は大姑娘山のBCまで尾根の中腹をトラバースで急な登りはなく、次々に現れる新しい高山植物を楽しみながら高度を上げていく。

16:30に100mほど下に開けた海拔3,600mの草原に我々のテント村が見下ろせ、ヒイラギ林を降りるとサクラソウ・シオガマギク・フウロウソウ咲き乱れる草地に16:45に到着する。5日目は休養をし、近くでスケッチ。

第6日目 7月8日(月)曇天 BC→AC

今日は4,350mのACまで高度差750m登りがあり、海拔が高いこともあり皆も疲れが出ているので豊富な高山植物を見ながらゆっくり登る。



4,000m付近から草丈約15cmの青いケシのメコノプシス グランディスが現れ、AC付近4,200m付近から葉や花に鋭いとげを有するメコノプシス

ホリドゥーラ 草丈20cmが数株見つかり、その後テント場周辺にたくさん見ることができた。黄色のメコノプシス インテグリフォリアも見られ、皆さん大感激で写真やスケッチに熱中してやっと15:05頃にテント場に到着した。

今回のトレッキングの目的のブルーポピーが見られ、白く雪を頂く四姑娘山のスケッチもできたので25周年記念山行の大きな目標が達成でき責任を果たして深い満足を得ることができました。翌朝は積雪で大姑娘山の登頂は中止。第8日目 7月10日(月)晴れ BC～日隆に下山する。

以上 記 富樫信樹

平成 27 年度支部合同会議 参加報告

公益社団法人日本山岳会の平成 27 年度支部合同会議が、平成 27 年 9 月 26 日 (土) ～27 日 (日)、主婦会館プラザエフ会議室で開催された。参加者は本部役員及び全国 32 支部の支部長並びに事務局長である。埼玉支部からは支部長の松本と古川事務局長の 2 名が参加した。今年 6 月の総会で新たに日本山岳会長に就任した小林政志氏の挨拶に続き、個別テーマについて本部報告及び意見交換が行われた。

第 32 回全国支部懇談会「鮮やかな早春の越後の山へ」の募集要項が越後支部から報告があった。日程は平成 28 年 4 月 9 日 (土) ～10 日 (日) である。

会員動向は、平成 26 年は 5,036 名 (平均 68 歳) で、永年会員は 347 名に増加し、会員減は 282 名であった。会費収入減や永年会員増も収支悪化の原因の一つである。昨年度の収支は 623 万円の赤字で、会費収入などでは事業費を賄えない状態が継続している。

各支部の平成 28 年度「山の日」の取組みは昨年に比べて多くの支部が「山の日」の事業を実施予定または検討中である。支部事業を都道府県・市町村や県岳連・労山などの連盟と共催する事で、一般市民を巻き込んだ「山の日」設立記念事業に出来る。

支部活性化のため支部間の連携・互助的な体制が必要な状況である。具体的なブロック単位の事業として、講演会、指導者研修、「山の日」関連事業が考えられる。南関東ブロックは埼玉・東京多摩・神奈川 (平成 28 年 4 月に設立予定) の 3 支部で構成される。東京多摩支部との初回打ち合わせを、11 月 20 日 (金)、16 時から新宿で開催する予定であり、南関東ブロックで取り上げるテーマに関する意見交換を行う。

財務改善等の意見交換では、会員増による会費収入増のため、広島支部や東海支部の登山教室

や会友制度の具体的事例が紹介された。海外では正会員を増やすため準会員制度がある。会友 (本部提案では、支部会員・準会員・会友などの用語が不統一で分かりにくい) の会費を寄付金として取り扱うこともでき、準会員にも税額減免のメリットがある。赤字解消のため、新永年会員の晚餐会費の有料化、グッズ販売、英文誌 JAN 停止、「山」の発行を年 10 回に削減、支部運営交付金を 2,500 円から 2,000 円に減額などの施策が検討されているが、決定までには更なる議論が必要であろう。

北海道支部創立 50 周年記念祝賀会：平成 27 年 12 月 12 日 (土)、ロイトン札幌

京都・滋賀支部創立 30 周年記念式典・記念交流登山：平成 28 年 4 月 23 日 (土) ～24 日 (日)
比叡山延暦寺 山内延暦寺会館

支部合同会議の最後に全体的な意見交換が行われた。支部間で会員増加への取組みや事業活動などに差はあるものの、各支部の自主的な活動が重要と思われる。また、他支部の事業内容を大まかに把握・理解し、支部の地域性や会員の特性に合わせた事業を展開するためには有益な情報も多かった。

松本敏夫 (記)



埼玉100山

天目山(三ツドッケ)ハイキング

大友寿郎

10月4日、初めて国内の山行に参加させていただきました。目的地は天目山ですが今回は趣をかえて東京側からの登山でした。晴天のこの日集合場所の奥多摩駅に集まった参加者は11名。

定刻バスで終点の東日原まで行きそこで高橋さんからこの日の行動予定を聞いて出発しました。

半分朽ちかけた家の裏から登山道に入りジグザグに登っていくと右手に採石場のフェンスがありそこから少し登るとヨコスズ尾根の稜線に出ました。

そこから右側はよく下刈りされた杉林が続く快適な道が続きました。しばらく登るとブナやミズナラの広葉樹林に入りどんぐりがたくさん落ちていましたが今年は豊作らしく熊も飢える心配はなさそうに思えました。きのこもたくさん見ました。途中道沿いの土が掘り返されているのを見ましたがそれはミズを探してイノシシが掘った跡とのこと。ドングリやキノコの種類イノシシ等の話が聞けるのは楽しいことでした。

やがて尾根を登りきって一杯水避難小屋に到着、すぐ荷物を置いて天目山(三ツドッケ)山頂を目指しました。山頂からの展望は素晴らしいもので奥秩父や奥



多摩の山々、南方には三頭山と大山、丹沢山塊も望むことができました。避難小屋のベンチに戻って昼食をとった後下山コースが2つに分けられました。登って来た道を引き返すコースと蕎麦粒山の分岐から鳥屋戸尾根を下るコースです。私は鳥屋戸尾根コースを選びました。そのまま下る3人に見送られて鳥屋戸尾根コースの8人は避難小屋を出発しました。一杯

水の水場を過ぎそこから県境に沿って平坦な道が続きました。途中楓の樹がたくさんありまだ色付いてはいませんでした。もうすぐ鮮やかな紅葉のアーケードとなるに違いありません。途中仙元峠は通らず南側を巻いて鳥屋戸尾根分岐に着きました。ここから標高差1000m、踏跡を辿って一気に下るわけで速い人で2時間、遅い人は4時間かかると聞かされ、小休憩の後、14:55下山を開始しました。1時間で笹ノ岩山に到着しましたが距離的に半分来ても高度は200mしか稼いでいないのであと800mも下りが残っていました。

この先急斜面に付けられた踏跡を辿るわけですが先頭の高橋さんは何の不安もないように淡々と下っていき、メンバーも遅れることなく黙々と後を追いました。広葉樹林帯から杉林に入ると道は作業道になり何度もジグザグを繰り返しながら下り続けました。そしてだんだん日が陰ってきて道も見えなくなってきた頃バス停傍の広い林道に降り立ちました。

17:25でした。鳥屋戸分岐を出発してからちょうど2時間30分かかりました。すごいペースで付いていくのがやっとでしたが何とか脱落せずに済みました。

ちなみに4日の日の入りは17:21でしたのでまさに間一髪でした。おかげでヘッドランプを使うことなく下山し川乗橋17:43の予定のバスに乗ることができました。奥多摩駅に戻って一旦解散、残った5人で駅前の居酒屋で飲んだ生ビールは最高でした。久しぶり達成感のある充実した山行でした。謝々。



埼玉支部の会員異動

平成27年10月20日現在 141名

会友:10月20日 現在 10名

入会:齊藤岳雄 (No.15819) 川崎貴弘 (No.15772)

入会:倉橋賢治 (k 0019)

若林弘美 (No.15775)

退会:山口裕睦 (k 0011) 吉田恵一 (k 0012)

退会:臼木博信 (No.12416) 近藤雅是 (No.10677)

鈴木つな子 (k 0013) 増田榮子 (k 0014)

正田範満 (No.12823) 正田緑 (No.12824)

和久津美幸 (k 0015)

月	今後の事業予定 (注) 最終的な日時・場所・内容の変更などはHP、メールをご参照ください	登山担当 C L
10	・ 4日 (日) 埼玉100山 (天目山・奥多摩より) ☆☆ ・ 25日 (日) 安全登山委員会講演会「火山噴火と安全登山対策」 ・ 24日 (土) ~25 (日) シカ食害と地滑り調査 (不父見山界限) ・ 25日 (日) 森づくり・自然観察会 (狭山緑の森博物館)	高橋
11	・ 10月31日 (土) ~11月1日 (日) 四季の山・秋山 (浅草岳、鬼が面岳) ☆☆ ・ 29日 (日) 大高取山自然観察会 (越生町後援、一般参加者募集)	高橋
12	12月12日 (土) ~13日 (日) 忘年清・清掃山行 三峰山☆ (興雲閣宿泊)	高橋
(平成28年) 1	・ 17日 (日) 新年山行と新年懇談会 (加治丘陵ウォーキング+新年懇談会) ☆ ・ 21日 (木) 埼玉自然保護シンポジウム ・ 23日 (土) 埼玉県警山岳救助隊による安全登山講演会 ・ 24日 (日) 森づくり・自然観察会 (狭山緑の博物館)	宮川・東
2	・ 13日 (土) ~14日 (日) 四季の山・冬 (日光白根山) ☆☆☆ ・ 20日 (土) 心肺蘇生及びAED使用法講習会	古川
3	・ 5日 (土) 埼玉100山 天覚山 ☆	
4	・ 9日 (土) ~10日 (日) 第32回全国支部懇談会 越後支部 ・ 16日 (土) 埼玉支部総会 ・ 17日 (日) 総会記念山行 釜ノ沢五峰 ☆ ・ 24日 (日) 障がい者ふれあい登山	古川 大久保

登山グレードについて ☆4時間程度、☆☆8時間程度の山行、☆☆☆岩・雪・藪バリエーションを含む

事務局からのお願い

住所はもちろんですが、
特にメールアドレスを変更された場合、
事務局へのご連絡をお忘れなく！

事務局長 古川史典
f8008pk@rock.odn.ne.jp

公益社団法人日本山岳会 埼玉支部報 第16号
2015年(平成27年) 10月25日発行
公益社団法人日本山岳会埼玉支部
発行者: 松本敏夫

事務局: 〒350-0312

比企郡鳩山町鳩ヶ丘1-25-10 古川方

e-mail: f8008pk@rock.odn.ne.jp

HP:

<http://jac.or.jp/info/shibudayori/saitama/index.html>

編集・印刷: 富樫信樹

埼玉支部の今後の主な行事をご案内いたします。

詳しいご案内は別途作成し、ホームページ・メール・郵送でご案内いたします。

大高取山自然観察会のご案内

大高取山の自然観察会を越生町教育委員会の後援で開催します。

日時・場所:平成27年11月29日(日)午前9:30 越生駅から1分の法恩寺集合
観察会は地質、植物、文化人類の班にわかれて自然を楽しみます。

申込は高嶋徳紘 048-859-1331 paramitayam.t.t@gmail.com

中村直樹 090-4966-4536 又は朝日守 090-1524-2284

忘年山行・忘年懇親会のご案内 ☆

今年の忘年山行は三峰山で年を忘れ、今後の安全登山を祈願します。

忘年山行は恒例の公益事業の清掃登山ですのでバス利用です。

日時:12月12日(土)~13日(日)

集合場所:大宮シーノ前8:30 若葉駅西口9:10 バス乗車

12日は観音山登山と三峰神社参拝・神職による講話 懇親会・宿泊は興雲閣

13日はご祈祷・安全登山祈願・妙法ヶ岳登山

経費:15,000円 宿泊代・飲み代

申込は高橋 努 090-2906-4356 tom-tak@bk9.so-net.ne.jp

11月30日までに申し込みください。

新年山行と新年支部懇談会のご案内 ☆

埼玉県南部の入間・飯能・青梅の加治丘陵を歩きます。途中標高189mの桜山展望台から富士山・丹沢・奥多摩・奥秩父や首都まで360度の展望が楽しめます。

ハイキングの後に支部懇談会を所沢で開催します。支部懇談会は28年度の事業案について支部長及び各委員会から報告があります。

日時・集合:1月16日(日) 9:35 西武池袋線仏子駅南口集合

経費:5,400円 食事代 食事処「ひょうたん別館」04-2922-7799

申込は宮川美知子 04-2958-2017 090-2648-1947 miyachan-5go@tbb.t-com.ne.jp

1月9日(土)までに申し込みください。

参加のキャンセルは13日まで、以降はキャンセル料が発生します。

☆ 参加をお待ちいたしております。